

# 原子力長計 市民ウォッチング

民主的・論理的、そして透明な長計策定プロセスをめざして  
グリーン・アクション気付

2004年10月19日

拝啓 秋冷の候、みなさまには、ますますご健勝のこととお喜びもうしあげます。

さて、今回送らせていただく資料は、青森県民の原子力委員会への要望、市民側の策定会議での使用済み燃料発生量「設定」への具体的な批判、そして原子力委員会が策定委員からの要請に答えていないままになっている事項をリストアップしたものです。

私たちは新長計策定会議が、民主的・論理的、そして透明であって欲しいと願い、これらの資料を送らせていただきました。ご査収くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬 具

原子力長計市民ウォッチング事務局

## ——添付資料——

- 策定会議での使用済み燃料発生量「設定」は余りにも現実離れしている
- 第17回長計についてご意見を聴く会への要望書
- 原子力委員会が策定委員からの要請に答えていないままになっている事項

## ● 原子力長計市民ウォッチングとは ●

長期計画の策定プロセスが民主的、透明、かつ論理的に行われることを市民の視点からモニタリングする市民オンブズです。定期的に提案もさせていただきます。この市民オンブズは、グリーン・アクション、日本消費者連盟の呼びかけで立ち上がった市民ネットワークです。

## 策定会議での使用済燃料発生量「設定」は余りにも現実離れしている 老朽炉に鞭打つ 60 年運転、幻の大増設計画を前提

新長期計画策定会議でのコスト比較などの重要な基礎となるのは、使用済燃料発生量の「設定」である。この発生量が小さいとき、再処理単価は大きくなり直接処分費との差が開く。そればかりでなく、再処理の必要性そのものを揺るがすことになる。

策定会議では、下記グラフの点線が示すように、2030 年以降の発生量は毎年約 1150 トンと想定している。六ヶ所再処理施設での処理能力 800 トンを超えて、第二再処理施設が必要な量である。この発生量は、発電電力量に比例し、発電電力量は原発設備容量から決まる。その際、設備利用率約 85%と寿命 60 年が仮定されている（策定会議第 9 回資料 1 号 4 頁と 13 号 4 頁、27 頁）。

しかし、美浜 3 号機事故によって老朽原発の危険性が如実に示されたのに、60 年もの寿命を仮定するのは無謀ではないか。参考までに、2004 年 1 月 23 日付電気事業分科会コスト等検討小委員会報告書では寿命 40 年が想定されている。また、利用率 85%も高すぎる。BWR のシェラウドひび割れが防ぎようのないことはすでに判明しており、BWR 全体の設備利用率は 2003 年で 40%を切っている。これは明日の PWR の姿でもあると考えるべきである。

原発の新增設では、現在準備工事に取り掛かっている以上のものは島根 3 号までである。芦浜、巻及び珠洲はすでに計画自体が消滅した。事業者自身が、例えば福島第一原発 7・8 号のように、電力自由化の中で原発の新增設を躊躇している状況を直視すべきである。

現状を踏まえれば、設備容量としては大きく見積もっても次のような想定になる。①2010 年度時点では島根 3 号までの容量。②寿命は 40 年まで。この場合を下記のグラフで示した。使用済燃料発生量の計算には一応設備利用率 80%を想定しているが、これも本当は高すぎる。この場合、策定会議の「設定」と比べて使用済燃料の発生量は格段に小さくなり、それだけ再処理単価は跳ね上がる。そうすると、再処理自体が必要かどうかとも改めて問題となる。

策定会議は、老朽炉に鞭打つ 60 年運転と幻の大増設という現実離れした前提に立っている。その判断で、ウラン試験を早々に開始するというような、取り返しのつかないことは絶対にすべきでない。

2004 年 10 月 19 日 美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会（代表：小山英之）

